

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.60

萩ジオパーク推進協議会

| 2020年2月28日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 ☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hagigeo/>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject/>

萩ジオパークフォトコンテスト2019 審査結果

速報!

2月25日（火）、萩ジオパークフォトコンテスト2019の審査会が開催されました。2つのテーマで募集し、「地球の営み」部門には36人から75作品が、「人の暮らし」部門には22人から41作品が出品され、以下の作品が入賞しました。



「地球の営み」部門

最優秀賞

『ダイナミック』
村上 歩夢（宇部市）

優秀賞

『億年の刻み』
白石 健太（宇部市）

入賞

『時を刻む溪流、長門峡』
原田 剛志（萩市）

『指月山と夕日』
林 克也（萩市）

「人の暮らし」部門

最優秀賞

『噴火 伊良尾ジオ
バイオマス』
工藤 茂篤（阿武町）

優秀賞

『歴史を学ぶ』
飯田 りえ子（宇部市）

入賞

『魚のひとつとき』
野間 幹雄（萩市）

『時間軸の心地良い違和感～
自然遺産をロケーションに。』
林 杏奈（東京都）



おめでとうございます！ なお、入賞作品については、萩・明倫学舎で展示します。

萩ジオツーリズム協会主催

萩ジオガイドフォローアップ講座を開催しました



土塀の石積みを見立て遊び！



阿東地域の方、Mine秋吉台GPガイドさんを迎え、モニターツアースタート

昨年4月、大地と人のつながりを体感する企画を提供する「萩ジオプランナー」と、大地と人の橋渡し役「萩ジオガイド」で構成する萩ジオツーリズム協会（会長：川岸正）が会員9名で発足しました。これまで、笠山ジオアドベンチャーなどの体験プログラムを実施したり、ジオツアー「〇〇さんに会いに行こう」を催行したりと協議会事務局と一緒に、活動しています。萩ジオツーリズム協会主催で、2月11日午前9時～午後5時まで、萩ジオガイド養成講座でお世話になっている（一社）をかしや代表理事の菊間彰さんを講師に迎え、ガイド技術の向上を目指し、美祢市や山口市阿東在住のジオパーク活動をしている方と交流をしながら、萩市ジオパーク活動補助金を活用した講座を行いました。

まずは、協会所属のジオガイドが萩城下町を舞台に大地と人のつながりを体感できる体験プログラムを催行、美祢市・山口市の皆さんにお客様になっていただきました。前日、萩入りをされた菊間さんから指摘を受け、未就学児を含む15名のお客様を2班で案内しました。その後、振返りを行ったあと、菊間さんと白井専門員による同じコースのプログラムを体感しました。「場」「間」の取り方、プログラムの組み立て方、安全な誘導など…「真似る」は「学ぶ」の第一歩です。パワーアップした萩ジオガイドの案内を体感してみませんか。協会主催のツアー情報は推進協議会事務局にお問合せください。



城下町の菊屋横町で色探し。見つかるかな？



同じコースを講師のガイドで。別のアクティビティで盛り上がりました

【萩ジオパークフェア2020】中止のお知らせ

昨年(2019年)の3月に第1回目を行いました【萩ジオパークフェア】を、今年も3月8日(日)に山口市阿東徳佐の阿東地域交流センターで開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の恐れがあるため、やむなく中止となりました。

これまで、開催に向け、萩ジオパークの活動に関わる本当にとくさんの人たちと準備を進めて参りました。残念ではございますが、また、次回の開催に向け、新たな準備を進めて参ります。

インターンシップ体験レポート

山口県立大学 社会福祉学部社会福祉学科 3年
原田 佳樹

私は3日間にわたり、萩市役所でインターンシップ研修に伺い、うち2日間は、ジオパーク推進課の活動に同行をさせていただきました。2日間を通じて、萩市が行っている政策や活動は、地域の実情に沿っており、市民との連携が図られていることを知りました。

ジオパーク推進課での活動を体験し印象に残ったことを書かせていただきます。

萩ジオパークは萩ジオパーク推進協議会という個人会員をはじめ、農協や漁協、NPO、そして、阿武町及び山口市などの行政機関で構成された組織で推進されており、萩ジオパーク構想基本計画・実行計画を策定し、ジオパークの普及啓発・地域活性化・観光振興（ジオツーリズム）を課題に様々な活動を行っているのだと知りました。今回私は、萩ジオツーリズム協会（ジオプランナー・ジオガイドで構成）主催のフォローアップ講座に同行しました。内容は、ジオガイド（案内者）とモニター（観光客役）でジオツアーを実践し、ガイダンスのスキルアップを行うというものでした。

私は、モニターとして講座に参加し、その雰囲気やガイダンスの内容を見させてもらいました。ジオガイドの方は案内する時に、他の観光客や車の通りなど安全面の注意喚起を行い、参加者のジオパークに関する視野を広げるために、ツアーの中で、簡単な遊びを盛り込みながら地形や地質につながる話をするなど、ガイドとして大地と人のつながりをきちんと伝えようとしているのだと感じ、また、私が18年間住んでいたこの萩の土地は、自然の営みと人間の技術を組み合わせて成り立っているのだという新しい発見ができました。



私もモニターとしてツアーを体験（写真中央）。ジオパークを通じた行政と市民との連携を肌で感じました

ツアー後のふりかえりでは、参加者とジオパーク推進課のメンバーで新たな課題や気づきを発見していく姿を見学し、ガイドやモニターの方といった市民と行政職員とのメンバーの連携の重要性を実感でき、萩市の掲げる「魅力ある歴史・文化・自然をいかしたまちづくり」に繋がっているのだと実感できました。

そして、改めて私の生まれ育った萩市は、自然や大地の恵みがあってこそ成り立っており、私たちはその恵みのおかげで今ここに立って生活していくことができるんだと認識することができました。

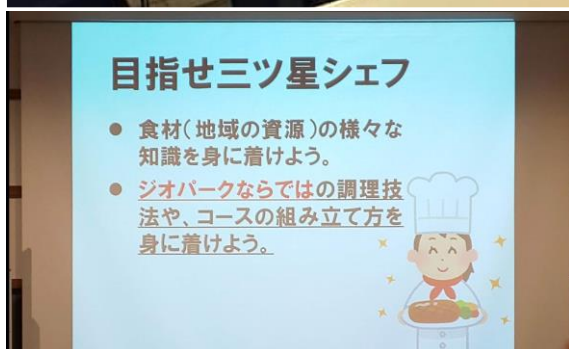
… 事務局長の独り言 …

昨年11月、ジオパーク関係者にとって思いもよらないニュースが飛び込んできた。天草ジオパークが日本ジオパークネットワーク脱退を決定した、というニュースだ。2回目の申請を経てようやく平成30年9月に加盟を認められた萩ジオパークに関わっている者としては、「何で、せっかく認定されたのに？」。報道をよく読むと、脱退理由は、「これまで約1億円かけてきたが、観光客増加に結び付かなかった」というもの。心情的には理解できるが、ジオパークを観光振興の手段としてしか捉えていないのでは、と思ってしまう。

ジオパーク活動は、保全、教育、持続可能な開発という3つの要素を包含していることが特徴のひとつである。単に観光振興のみを目的としている訳ではない。観光客の増加はジオパーク活動の一つであるジオツーリズムを活発化していく過程で自然と生じる現象であり、観光客の増加を主目的として活動していると、ジオパークの本質を見落としてしまいかねない。

今回の天草の件は、何故ジオパーク活動をしていくのか、と自問する良い契機となった。ジオパークが日本に入ってきて10年。10年前と比べるとジオパークが日本社会に広まったことは疑いないが、これからの10年は、横への広がりだけではなく縦への深まり、ジオパーク活動への理解をどれだけ深めていくか、ということも大きな課題となる。萩ジオパークは、住民の皆さんと一緒に、その課題に応えていきたい。

萩ジオプランナー養成講座を実施しました



2月1日(土)と2日(日)の2日間で、ジオツアーの企画を実習形式で学ぶ「萩ジオプランナー養成講座」を実施しました。これまでに萩ジオパークの各種講座を受講し、萩の大地と人のつながりを楽しんできた萩ジオマスターさん15名が参加しました。地域を“大地と人の関わり”という切り口で描くジオツアーを企画するために、ツアーの落としどころ、コンセプト、ターゲットなどを、企画作業を通して学びました。『楽しむ』側から『楽しませる』側になるために、これまでとは異なる学びに苦戦されていましたが、一人の脱落者も出ることなく、最後まで全員で考え抜きました。今回の講座で作成した案をもとに、実際のジオツアーを春に実施することを目指して、引き続き企画作業を続けていきます。どんな楽しいジオツアーになるのか、皆さんお楽しみに！

3月の予定 - Information -

- 萩ジオアドベンチャー 3月1日(日) 10:30~12:00 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため**中止**。
- 萩ジオパークフェア2020 3月8日(日) 10:00~16:30 新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため**中止**。
- geoとも(萩ジオ友の会)定例会「ジオ探訪」 3月29日(日) 8:00~16:00 集合場所:萩市総合福祉センター 内容:萩周辺の地震の跡をたずねて~過去から学ぶ~ 参加費:1,300円 主催:geoとも 問合せ:geoとも西嶋(0838-26-6123)

はんた がんばれ!半田くん

原作：わっきー教授 画：白玉だんご

第22話 せんごく 千石だいこん足



第23話 小川の太もも



わっきー教授のつぎやき ~ ひとつと解説 ~

おや、久しぶりに田床山美の登場ですね。笠山つばきちゃんの登場を期待していたおじさま方、ごめんなさいm(_ _)m。田床山美も笠山つばきちゃんに負けな



くらい魅力に溢れた女の子なんです。腹巻で納豆を育てて、毎朝納豆を欠かさず、たくあんをポリポリかじって、元気いっぱいな女の子です。納豆に含まれるナットウキナーゼは、血栓を溶かして動脈硬化症の予防に役立つと言われてい



むつみ地域の千石台には、広大なだいこん畑が広がっています

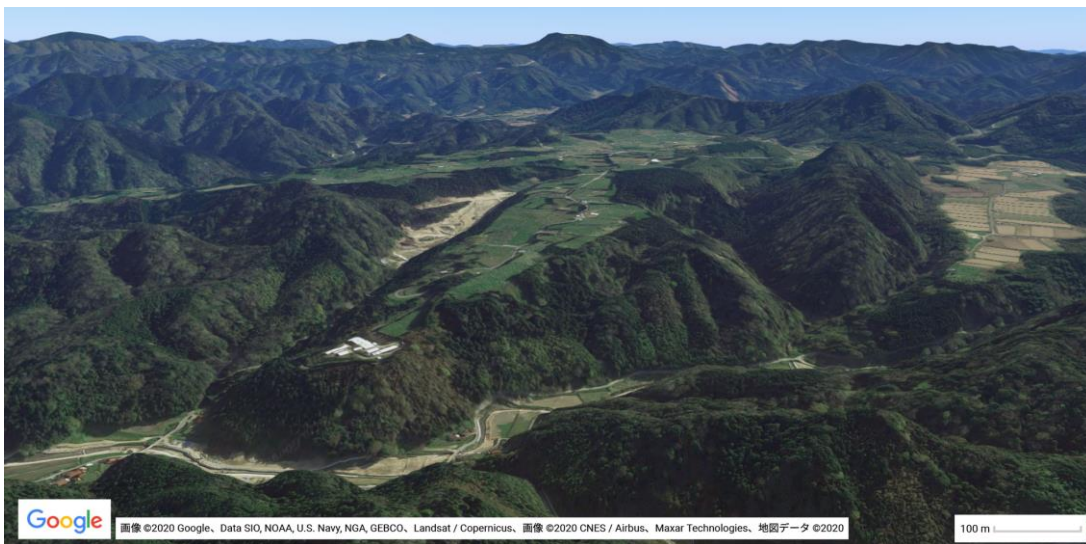
さて、今回は半田くんが、田床山美ちゃんを誘って千石台と平山台を訪れました。どちらも笠山と同じ「阿武火山群」の単成火山です。千石台も平山台も安山岩からデイサイトの組成を持っています。特に千石台の岩石は珪酸が62.48%もあり、阿武火山岩群の中では、珪酸塩分が多い岩石となっています。出来た年代も、阿武火山群の中では比較的若く、数万年前以降に噴火したと考えられています。

千石台も平山台も溶岩で出来ていて、溶岩平頂丘と呼ばれる、台の上の部分

その台の上には川がないので、雨水を蓄えて利用したり、約100m下の川から運んで来なければなりません。普通の平野では、洪水などのときに流されてきた土砂が肥沃な土を運んでくるのですが、この台地の上では川が土砂を運んできてくれません。火山灰のほかに、風が運んでくる細かい粒子と腐食した植物が、農作物を支える土となります。細かい粒子が多いので、粘土質な土壌が多いのがこれらの台地の特徴です。また、水はけが良いというのも高い台地の特性でしょう。

千石台は、東西約1km、南北約2kmもの広大な台地の上で、青首大根が沢山栽培されています。年間数千トンが出荷され、中国地方屈指の大根の産地ですね。これらの大根は、「千石台だいこん、あるいは(干) (まるせん) だいこん」とよばれ、甘みがあって味も良く、評判です。一方、平山台の果樹生産は、昭和32年頃に手開墾で始まったと言われています。桃をはじめ、梨・ブドウ・栗・リンゴなどが栽培されています。水はけの良さや、粘土質の土壌に加え、昼夜の温度差が、良質の桃を育てるのに適していると言われています。

今回、千石台からは、「千石台 昆」さんという農家のおじさん。平山台からは、「小川もも果」ちゃんという半田くんの同級生に登場してもらいました。案内役の田床山美さんも、大好きなたくあんや桃を堪能して、うれしそうです。桃の季節と大根の季節は、ずいぶん離れているし、大根がたくあんになるにもずいぶん時間がかかるのだけど、そういう時季外れも気にならないのが、四コマ漫画の良いところですね。細かいところを気にしないで、笑っていただければ幸いです。あまり気にすると血圧あがりますよ。ふっふっふ… (笑)。



平山台を空から見てみると…